

第 73 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【学校教育部門】

今回の学校教育部門の3作品すべてが、制作意図が明確で、制作者の思いが随所に表れていた。その思いを伝える方法として、事実を複数並べたり、人形劇や紙芝居にしたりと、伝えたいことや視聴する対象を明確にし、表現の仕方を考えて制作している点が素晴らしい。学校教育での活用はもちろんであるが、幼児や大人を対象として活用しても大いに学びのある作品がそろっていた。後世に伝えていくべき歴史や文化、誰もが感じる不思議等、どれも身近にあるにもかかわらず、注目されていないことに注目し、課題や疑問を抱いたところが、それぞれの作品の魅力である。だからこそ、誰もが興味深く視聴できる内容となっているのであろう。優れた教材として、多くの人に活用してもらいたい。

視聴覚教材は、伝えたいことを広く、かつ未来へと発信できるものである。今回出品された作品は、現代を生きる人たちのみならず、未来に生きる人たちにとっても大いに学びある作品であることは間違いない。今後も、そのような作品を期待したい。